２０２４（令和６）年度

全国地域青年「実践大賞」

報　告　書

全国地域青年「実践大賞」とは

　全国の青年たちによる主体的なの実践を掘り起こして紹介し、そして次の活動への励みになることを目的に日本青年団協議会と一般財団法人日本青年館が主催となり、毎年実施している顕彰制度です。

　私たちは、様々な地域で展開される特色ある実践を集めることで、相互に学び合い、地域での活動や青年たちの生活をより豊かにすると確信し、この顕彰制度を実施しています。

主　催

日本青年団協議会、一般財団法人日本青年館

目　　次

１．応募実践・結果一覧表 ……１

２．応募作品実践概要・審査員講評
◆大賞 ……６

◆準大賞 ……７

◆奨励賞 ……８

◆審査員賞　継続賞 ……１３

景観賞 ……１４

◆特別賞　田澤義鋪賞 ……１７

全国青年団ＯＢ会奨励賞 ……１８

◆その他の応募作品 ……２０

３．資料集編（表彰団体提出書類の一部抜粋）
◆大賞 ……４２

◆特別賞　田澤義鋪賞 ……４８

全国青年団ＯＢ会奨励賞 ……５２

２０２４（令和６）年度全国地域青年「実践大賞」受賞結果・応募一覧表

審　査　会	２０２４年2月１４日（金）　１３時００分～１７時００分
審査会場	日本青年館５階　青年団ルーム
審　査　員	萩　原　建次郎　氏（駒澤大学総合教育研究部教職課程部門教授） 熊　谷　好　真　氏（中日新聞東京本社メディアビジネス局次長） 上　原　幸　子　氏（武蔵野美術大学通信教育課程デザイン情報学科教授） 榎　木　奨　悟　氏（文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長補佐） 澁　谷　　隆　（一般財団法人日本青年館公益事業部部長） 棚　田　一　論　（日本青年団協議会事務局長）
進　　行	佐々木　美　翔　（日本青年団協議会事務局員）

◆受賞結果

大賞	高知県青年団協議会（高知県）	高知家多文化共生まちづくりプロジェクト
準大賞	岡山県青年団協議会（岡山県）	令和６年能登半島地震ボランティア派遣
奨励賞	静岡県青年団連絡協議会（静岡県）	第７０回静岡県青年祭記念特別公演「スルガ・エレガント」
奨励賞	もりやま青年団（滋賀県）	Paddy Festival in MORIYAMA 2024
奨励賞	山口市カフェ＆カレー豆本編集部（山口県）	山口市カフェ＆カレー豆本

＜審査員賞＞

継続賞	日野町連合青年会（滋賀県）	広報活動　機関紙「ひのせいねん」
景観賞	迫町青年会（宮城県）	花いっぱい運動

＜特別賞＞

田澤義鋪賞	高知県青年団協議会（高知県）	学びのココロプロジェクト
全国青年団OB会奨励賞	五箇三村連合青年団（富山県）	映画『HAGAYASHI』

◆応募実践

No.	道府県名		市町村名	団体名	活動の名称
1	0401	宮城県	柴田町	柴田町青年会『雀の一声』	青年カフェのメニュー開発
2	0402	宮城県	登米市	登米市青年団連絡協議会	登米市青年交流会
3	0403	宮城県	登米市	南方青年会	復活！４年ぶりの開催！牛まつりのボランティア
4	0404	宮城県	登米市	迫町青年会	花いっぱい運動
5	1701	富山県	南砺市	五箇三村連合青年団	映画『HAGAYASHI』
6	1702	富山県	南砺市	上平青年団	かみたいらヤングファーム
7	1901	福井県	大野市	大野市灯そう会	灯祭
8	1902	福井県	鯖江市	福井県連合青年団	福井県若者交流運動会
9	2201	静岡県	静岡市	有度青年団	有度青年団次世代につなげる試み
10	2202	静岡県	藤枝市	藤枝青年ネットワーク	宅配サンタ
11	2203	静岡県	静岡市	静岡県青年団連絡協議会	第７０回静岡県青年祭記念特別公演「スルガ・エレガント」
12	2501	滋賀県	守山市	もりやま青年団	みんなとつくるモリセイインスタ！
13	2502	滋賀県	守山市	もりやま青年団	Paddy Festival in MORIYAMA 2024
14	2503	滋賀県	日野町	日野町連合青年会	広報活動　機関紙「ひのせいねん」
15	2504	滋賀県	日野町	日野町連合青年会	団員募集チラシ
16	2505	滋賀県	竜王町	CREW R.S.竜王町青年団	わくわくワーク’24 看板
17	2506	滋賀県	高島市	高島市青年協議会	あなたの街に！あわてんぼうの サンタクロースがやってきたぁ！！！
18	3301	岡山県	岡山市	岡山県青年団協議会	令和６年能登半島地震ボランティア派遣
19	3302	岡山県	岡山市	岡山市青年協議会	防災マルシェ

20	3501	山口県	山口市	山口県青年団	ガンバルフォーラム2024「写真でつながる、わたしと山口」
21	3502	山口県	山口市	山口県青年団	やまぐち青年写真展「わたしたちのやまぐち」
22	3503	山口県	山口市	山口県青年団	初めての浴衣着付け教室～山口県を着飾りましょう！～
23	3504	山口県	山口市	山口県青年団	『ラーメン食べても罪滅ぼしウォーキング』でめざせ０キロカロリー！ ～オープンデータを利用してラーメン店や文化財の位置を調べてみよう！～
24	3505	山口県	山口市	山口市カフェ＆カレー豆本編集部	「山口市カフェ＆カレー豆本」
25	3901	高知県	県内各市	高知県青年団協議会	高知家多文化共生まちづくりプロジェクト
26	3902	高知県	県内各市	高知県青年団協議会	学びのココロプロジェクト
27	4301	熊本県	あさぎり町	球磨郡青年団協議会	広報紙SEINENDAN
28	4302	熊本県	あさぎり町	球磨郡青年団協議会	教宣セミナー
29	4303	熊本県	山江村	球磨郡青年団協議会	第５５回球磨郡青年団協議会駅伝大会

大賞・準大賞・奨励賞

実践概要　・　審査員講評

---

5 県 5 実践が受賞

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

大賞

活動に常時または定期的に取り組み、地域に大きく貢献し、集められた実践の中で最も優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。活動奨励金5万円と表彰状が授与されます。

高知県青年団協議会（高知県）

概　要

【実践①】

活動名称	高知家多文化共生まちづくりプロジェクト		
活動場所	高知県内（土佐市/高知市/いの町/香南市/安田町）		
活動実施日	2024年5月13日～12月11日		
関係者数	約200人	参加者数	約50人
活動概要	高知県内で増えつつある、技能実習生・留学生等の外国籍のみなさん。同じ地域　で暮らす同世代の若者にも関わらず、その受け皿が無いことからトラブルや寂しい思いをしている方々が多いという現状を受け、「高知家多文化共生まちづくりプロジェクト」をスタートしました。はじめましての出会い、交流、お別れ…。国籍関係なく、高知家の多文化交流・絆がこれからも永遠に続いていきますようにという思いを込めた１年間の歩みです。		

審　査　員　講　評

実践大賞の受賞、おめでとうございます！今回、満場一致で選出されました。

近年、東南アジア、東アジアを中心とした海外から、多くの若者が技能実習生や留学生として来日しています。母国を離れ、言葉の壁もある中で日本での暮らしに困っていたり、地域住民とのふれあいや交流の機会もなく、孤独と孤立の問題を抱えていたりしても、彼ら・彼女らの地域の居場所づくりやケアは後手に回っています。そうしたなか、地域住民とのトラブルをそのままとせず、その背後にある外国籍住民の悩みを敏感に感じ取り、それに何とか応えようと立ち上がったのが、今回エントリーされた「多文化共生まちづくりプロジェクト」です。

プロジェクトでは、地域の紹介、よさこい祭りへの参加、意見発表会など、多様な交流機会を設けることで、外国籍住民と地元住民間の相互理解を深める努力が感じられ、多文化共生社会の実現に向けた青年団の熱意と行動力が示されていました。

特筆したいのが、これらの実践が普段どおりの飾らない青年団のスタンスで生まれている点です。同じ地域に暮らす仲間として、困っている人がいるなら何とかできないか。人としてお互いのことを知り合おう、一緒に何かをやってみて仲良くなれれば・・・といった、これまでの地域活動でも見られた青年団のスタンスが、ここでも随所に感じられました。

プロジェクトの最後には「外国籍の〇〇さん」から「〇〇ちゃん！」「〇〇さん！」へと関係性が変化し、互いにかけがえのない存在になったことは、「共に生き、共に地域に暮らす仲間づくり」にふさわしく、心温まるものでした。今後の活動の発展を期待するともに、このような実践が全国各地においても広がっていくことを願っています。

準大賞

大賞に次いで優れた実践に取り組んだ団体に授与されます。活動奨励金 3 万円と表彰状が授与されます。

岡山県青年団協議会（岡山県）

概　要

活動名称	令和6年能登半島地震現地ボランティア活動		
活動実施日	2024年1月1日～2024 年9月29日	活動場所	岡山県内、石川県内
関係者数	100人	参加者数	26人
活動概要	8 月 9 日(金)から 12 日(月)の 4 日間にわたり、令和 6 年能登半島地震ボランティア活動を実施しました。高校生から社会人まで合計 26 名が現地へ赴き、輪島市にて災害ボランティア活動、珠洲市にて復興支援イベントを行いました。実施に向けて、事前の現地視察や募金活動、実行委員会を開き、準備を進めました。私たちが被災地の方々に何ができるのか、初めは模索するばかりでしたが、石川県青年団協議会の方をはじめ、多くの方にご協力いただいたことで内容を具体化することができ、実現に繋がりました。		

審　査　員　講　評

このたびは準大賞の受賞おめでとうございます。

岡山県青年団協議会の取り組みは、実践にあたり、まずは地元岡山でできる募金活動などからはじめ、現地派遣にあたっては、専門家に相談し現地視察を行うなど、事前に入念な準備を行いつつ、現地の石川県の青年団関係者と連携・協力しながら活動を展開しており、実践と活動の中で学び、成長していく姿が見えることが非常に頼もしく感じられました。

また、活動する際に青年団だけの取組に閉じることなく、岡山県内の大学生や高校生の参加を募り、幅広い参画者による派遣を実現していることも大きなポイントです。

さらに、派遣先でも現地ボランティア活動や現地の方との交流などを通じて、自発的に清掃活動を行うなど、活動を通じて各団員が主体的に動くことができるようになっていく姿が見えます。

災害はいつどこでどのように起きるかわかりません。そのような中で、地域に求められるのは当事者意識と実行する力、そのためにつながる力です。

活動を通じて育ったその力が、すでに岡山に戻ってからの活動にも活かされており、今後、地域のさらなる活性化に青年団活動が資することが期待される取り組みです。

奨励賞

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。
活動奨励金１万円と表彰状が授与されます。

静岡県青年団連絡協議会（静岡県）

概　要

活動名称	第70回静岡県青年祭記念特別公演「スルガ・エレガント」		
活動実施日	2024年6月29日～11 月10日		
活動場所	静岡市内・日本青年館ホール		
関係者数	20 人	参加者数	4 人
活動概要	静岡県青年祭にてのどじまんを行った後に 70 回を記念してみんなと一緒に何かをつくり上げたいという想いから始まりました。舞台という形にしたのは団員がミュージカルに興味があることをもとに静岡の魅力（活動・観光・食べ物）ディズニーの歌の替え歌にして静岡を PR する演出をつくり上げました。		

審　査　員　講　評

地元静岡に対する愛情がひしひしと伝わってきました。青年団が活動するパワーの源は何かと問われれば、間違いなく「地元愛」だと感じさせる取組です。70回の記念事業に取り組まなければならないという少し消極的な気持ちが、メンバー交流をする中で「面白いことをやってやろう」というポジティブな方向へ意志が動いています。大切な仲間との交流で生まれた想像力が爆発した瞬間に静岡全域を紹介するミュージカルが生れました。

富士山、わさび、紅茶、プラモデル、楽器などなど。静岡にあるたくさんの日本一はもとより、県内を偏ることなく紹介したい。替え歌「マウント・フジー」に目いっぱい詰め込んだ静岡。歌詞を読むだけで静岡県周遊の旅に出かけた気分になれます。

ネットで様々な情報や画像が溢れる時代に、それらを一切使わない。自分たちの地元愛の証となるミュージカルだから、自分目線のオリジナル取材で作り上げたその心意気は「あっぱれ」というほかありません。

奨励賞

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。
活動奨励金１万円と表彰状が授与されます。

もりやま青年団（滋賀県）

概　要

活動名称	Paddy Festival in MORIYAMA 2024		
活動場所	守山市立守山北中学校横の水田	活動実施日	2024 年 6 月 16 日
関係者数	約 30 人	参加者数	約 120 人
活動概要	青年が主体となって活動し、どろんこバレーに参加する人も見る人も楽しんでもらえることで、守山市全体を活気づけようと、2006 年から始まった事業です。普段の生活では体験できない「非日常」を感じ、子ども心に戻って無邪気に楽しむことができることが一番の魅力です。今年は市内だけでなく、市外・県外からの参加者も集まり、とても賑やかな雰囲気の中で大会が開催されました。		

審　査　員　講　評

奨励賞の受賞おめでとうございます。今回は教宣グッズとしてのエントリーでしたが、フェスティバル自体も福井県、静岡県団の参加もあり、他県青年団への波及も改めて確認することができました。もりやま青年団を象徴する本事業を引き立てるオレンジ色の旗に「翔べ」という字体が勢いもよく、躍動感もあって印象的でした。この「翔べ幕」を背景にしたインスタが様々な団体でアップしていることからも、大きな役割を果たしたといえます。

BBC びわ湖放送「守山ニュース」も視聴しました。参加者もモリセイのみなさんも一人ひとりの弾ける笑顔「どろんこスマイル」が印象的でした。旗に書かれた言葉には、とても胸が熱くなりました。前回の応募がありました Instagram もさらに活用されており、親しみやすさ、アーカイブ化、広報効果、交流促進など、多くの点で優れた取り組みであり、他の青年団が取り組む SNS 広報のパイオニアとなってくれることを期待しています。

奨励賞

長期間にわたり続けてきた活動を行っている実践や、新たな実践に取り組んだ団体などに授与されます。
活動奨励金1万円と表彰状が授与されます。

山口市カフェ＆カレー豆本編集部（山口県）

概　要

活動名称	山口市カフェ&カレー豆本編集部	活動場所	山口県山口市
活動実施日	2024年1月20日～3月31日		
関係者数	25人	参加者数	14人
活動概要	山口県山口市は2024年1月、「ニューヨーク・タイムズ」による「2024年に行くべき52カ所」の第3位に選ばれました。山口市民は皆驚きました。 そこで、山口市に住む大学生 14 人（このうち 3 人は中国人留学生）は情報発信強化に動きました。山口県内で既に知られている「グルメ豆本」の山口市版を自ら取材して製本し、旅行者の皆様に読んでもらおうと考えました。		

審　査　員　講　評

奨励賞の受賞、おめでとうございます。

山口大学・山口県立大学の学生の発案で集まった編集チームが、自ら足を運んで取材・執筆・編集し、制作から発行・販売までのプロセスを実践した豆本プロジェクトが高く評価されました。

このプロジェクトは、山口県内でデザイナーやカメラマンとして活躍している専門性を持つ青年団員が、プロボノ的な立ち位置で大学生チームと関わり、冊子作りをとおして行った社会連携活動です。地域に眠っている市内の食の魅力を、大学生ならではの視点で掘り起こし可視化した成果物が、クラウドファンディングへの挑戦を経て、単行本サイズの豆本として出版を果たしました。実際に手に取ってみると、単なるガイドブックとは異なる編集的な温かみを感じます。今回のように地域の青年団と学生のコラボが実現した事例を元に、地域活性化に貢献する次世代育成と、社会実装する裾野の広がりに期待したいところです。

審査員賞

実践概要　・　審査員講評

２県２実践が受賞

審査員賞とは
　２０２３年度から導入された新たな賞です。応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。実践内容やその特色に合わせて、賞名や副賞の内容は審査会で決定しています。

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

継続賞

審査員賞は、応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。

表彰状が授与されます。

日野町連合青年会（滋賀県）

概　要

活動名称	広報活動 機関紙「ひのせいねん」		
活動実施日	2024年4月1日～2025年3月31日	活動場所	日野町連合青年会事務所
関係者数	6人	参加者数	6人
活動概要	機関紙「ひのせいねん」は、数十年前の先輩方から受け継いできた当会の伝統事業です。今も変わらず、どの記事も手書きで丁寧に作成しています。年間に 4 回発行しており、私たちの活動についての事業報告・告知だけでなく、団員それぞれがどのような思いで取り組み、何を感じたかなども伝えられるように意識して取り組んでいます。 誰か一人に負担を強いるのではなく、団員みんなで意見を出し合い関わりながら毎号作成しています。 B4 更版紙で作成することもこだわりの1つで、新聞折り込みで手に取っていただきやすくなっています。		

審　査　員　講　評

数十年前から続く伝統の機関紙「ひのせいねん」の発行を継続している。継続できるその力は称賛に値します。日野青年団の先輩が築き上げてきた歴史を次の世代に残す取り組みでもあります。発行とともに歴史が刻まれ、リアルな印刷物として記録が残っていく。デジタル化が進む世の中にあっても、手作り感が伝わり、作り手の温かさがを感じさせる。地元の人からの評価が何よりの証です。

昨今、日墓の暮らしでは文章を書く機会が減っていますが、日野青年団は機関紙づくりを通して、個性ある文章、自分なりのスタイルを確立しています。書くことは、考えることに等しい。青年団活動の反省や今後のヒントが生れてくるきっかけにもなり、機関紙の発行は副次的な効果を生み出しています。

また、機関紙を話題に地域の皆さんとコミュニケーションの輪が広がり、地域から応援いただく大切な役割も果たしています。機関紙の発行は、とても効果的な取り組みに育っていると感じました。

景観賞

審査員賞は、応募いただいた実践のなかから、特定の観点において優れているものに授与されます。

活動奨励金１万円と表彰状が授与されます。

迫町青年会（宮城県）

概　要

活動名称	花いっぱい運動		
活動実施日	2024年6月8日～2024年12月14日		
活動場所	登米市内		
関係者数	10人	参加者数	10人
活動概要	毎年公民館より花の苗の提供をいただき地域の景観をよくすることを目的に実施している。ここ数年は夏の酷暑で花が枯れてしまったりしまっていたが何とか時間の合間を見て花壇を管理しようと試みた。夏の日中は暑いので日の出直後の5時～6時、夕方の 18 時頃に活動をし 11 月まで無事に花を咲かせることに成功しました。		

審　査　員　講　評

長沼フートピア公園という公共の場の景観向上に貢献し、来場者に美しい景観を提供している点は、地域貢献として非常に大きいものがあります。さらに 3 年間にわたり継続的に花壇管理を行っている点は、青年会の地域への責任感が伝わってきます。

今回の実践のきっかけは公園側からですが、そこは日頃からの施設側・地域との信頼関係があってこそだと受け止めました。活動の自発性をどのようにとらえ、評価するかは人によって異なりますが、地域との信頼関係をコツコツと積み重ねることは、あらゆる地域活動の土台です。

このような土台づくりに加え、花壇への毎日の水やり、早朝からの手入れ、除草作業など、労を惜しまない取り組みがあったことが大きく評価されました。またその過程で会員同士の会話と交流のきっかけとなったことも波及効果の大切な側面です。花いっぱい運動を通じて、ひととひとのつながりや笑顔の花が満開になることを願っています。

特別賞

実践概要　・　審査員講評

２県２実践が受賞

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

田澤義鋪賞

一般財団法人日本青年館より、明正選挙運動、地方自治、地域振興などに取り組み優れた成果をおさめた団体に授与されます。活動奨励金5万円と表彰状が授与されます。

高知県青年団協議会（高知県）

概　要

活動名称	学びのココロプロジェクト		
活動場所	高知県内（高知市/土佐市/四万十市/安田町）		
活動実施日	2024年5月1日～2024年12月25日		
関係者数	約200人	参加者数	のべ150人
活動概要	）学校教育以外の、こどもたちを見守る・育てる「青少年の居場所」づくりを、県　青協が主導となり、県下各地の地域団や青年団　OBOG、社会福祉協議会等と連携して進めていく「学びのココロプロジェクト」が今年度始動した。こどもたちを取り巻く環境が特に厳しいと感　じる高知県で、居場所の必要性や、青年団・大学生等の年齢の近い大人とのふれあいの大切さを　感じることはもちろんだが、こども達の喜ぶ顔を見ると地域青年のやりがいもひとしおだ。これ　からも未来に残していきたい、まなココプロジェクトの歩み。		

審　査　員　講　評

このたびは田澤義鋪賞の受賞おめでとうございます。

高知県青年団協議会の取組は、加盟団体に所属する学生の実体験をきっかけとして、地域の青少年たちが学習の支援を受けたり、気軽に悩み相談などができる居場所をつくるプロジェクトです。

きっかけとなった学生の思いが、地域が直面している課題とつながっており、これまでやってきた県のボランティア・NPOセンター事業を活用し、地域の高校生と連携した地域活動を発展させることで地域の振興につながる取組となっています。

子供たちとの取り組み・実践を通じて、青年団や関連団体のメンバーのモチベーションや意識の向上も図られ、リーダーシップの向上やつながりなど、組織の機能強化にもつながっています。

すでに、複数の地域で地域の青年団を中心とした活動に広がりを見せていますが、県の青年団協議会が、各地域の青年団が中心となって地域をフィールドにした取組を展開してもらえるようサポートすることで、今後の取組がますます広がりを見せることを期待しております。

全国青年団 OB 会奨励賞

全国青年団OB会（青年団OB・OGの連絡組織）より、全国の青年団にとって励みとなるような組織の強化及び拡大に顕著な実績をあげた団体に授与されます。活動奨励金5万円と表彰状が授与されます。

五箇三村連合青年団（富山県）

概　要

活動名称	映画『HAGAYASHI』		
活動実施日	2024年6月9日～2025年1月25日	活動場所	五箇山地域
関係者数	45 人	参加者数	35 人
活動概要	人口が減っていく中、「隣地域の青年団と一緒に活動しよう」「五箇山は一つ」をモットーに、五箇山地域みんなで一つの作品を作りたい。そして後世にも残したいという思いが強くなり、五箇山（上平・平・利賀の3つの地域の総称）を舞台に史実もなにもない、オリジナルフィクションの自主映画を制作することに決めました。		

審　査　員　講　評

全国青年団 OB 会奨励賞おめでとうございます。

何よりまず、昨年の「お小夜伝」からもう一回りパワーアップし、三村の青年団が協力し合っての合作という連携活動自体を高く評価したいと思います。完全なるオリジナルストーリーで、脚本、監督、撮影、音楽まで、全てを手作業で行っている自主映画であることから、関わっている皆さんの情熱が伝わってきました。五箇山の風景の美しさや地元の伝説と絡めた脚本、そして遠く離れていた仲間が故郷に帰ってくるという設定など、五箇山への熱い想いが込められた心温まる作品となっています。

地元メディアに取り上げられたことによる波及効果は大きかったと思うので、地域振興の意味合いも込めて、地域映画としての外部発信など、今後の積極的な展開に期待したいと思います。

その他の応募作品

実践概要　・　審査員講評

８県２０実践

※審査員の講評以外は、提出資料のアピールレポートや推薦書から抜粋しています。

柴田町青年会『雀の一声』（宮城県）

概　要

活動名称	青年カフェのメニュー開発		
活動実施日	2024年7月7日～2024年9月29日	活動場所	柴田町船岡生涯学習センター他
関係者数	7人	参加者数	200人程度
活動概要	柴田町青年会の自主財源確保の為に新たな青年カフェで出すメニューを作ろうと考えた地域の方々とのコミュニケーションを図るためのきっかけ作りの為に作成することになった。		

審　査　員　講　評

地域から相談のあった、地植えミントの廃棄処分の話から一念発起。地域資源を有効活用したミントシロップという、新たな商品開発に発展させたアイディアを評価しました。そしてこのことが発端となり、青年カフェ出店を決意したという前向きな姿勢には大変驚かされました。更に食品衛生責任者の資格を取るなど、想いを具体的な取り組みに発展させていくための意気込みには目を見張るものがあります。今後は青年カフェが地域の集いの場となることを期待します。そしてミントシロップを使った今後の商品開発には、試食アンケートなどをとおして地域の方にも参画してもらうなど、地域の交流の機会としても活用できたらいいですね。皆さんのチャレンジの今後を楽しみにしています。

登米市青年団連絡協議会（宮城県）

概　要

活動名称	登米市青年交流会	活動実施日	2024年6月7日～2024年7月15日
活動場所	登米市内		
関係者数	20人	参加者数	15人
活動概要	加盟団の団員の提案で始まり、青年団に所属はしていないが青年団活動に似たような活動をしている団体があるのでそういった団体さらに所属していないがそういった活動をしている方々と交流し今後の青年団活動に役立てようと企画し実現できた。		

審　査　員　講　評

コロナ禍を経てオンラインでつながることが当たり前になりつつある中で、団員の中からリアルでのつながりを求める声があがり、「鉄は熱いうちに打て」という言葉から始まった企画が交流会という形で実現している点は、行動力と実現力はこれからの活動にも大きな自信につながったことでしょう。特に審査会の中で評価が高かったのは、①色々な人たちに交流の機会を持てるようにするために４部構成として仕掛けた点、②交流会を単なる飲み会ではなく「語り合える場」として捉えている点でした。青年団加入者の増加にはつながっていないものの、「人と人を繋ぐことはできた」という点は、長期的な視点で見れば大きな成果でした。また、講演の評価が高かった志田さんはどのような話をされたのでしょうか。「ヨソモノが見た登米市の魅力」という演題から、地元の方ではないことは推察できますが、具体的な話の内容があると、さらに良かったです。地域の仲間との交流を深める一歩となりましたので、来年はより相互に連携できる事業が展開されることを期待します。

南方青年会（宮城県）

概　要

活動名称	復活！4年ぶりの開催！牛まつりのボランティア		
活動実施日	2024 年6月1日～2024年8月11日		
活動場所	登米市内		
関係者数	100人	参加者数	6人
活動概要	団員で来年度について話す場があり、活動をするにはやはり新入団員獲得が必要だという話になった。新入団員獲得につなげる取り組みとして、二十歳のつどいで青年団のアピールをしたいという思いから今回のチラシを作成することとなった。当初は片面のみの予定だったが、二十歳の集いで配布される封筒にこの団員募集チラシを同封してもらうという点から、片面が真っ白よりも両面のほうが見てもらえる可能性が高いと考え、両面作成することにした。 二十歳のつどい実行委員会に間に合うよう、約 1 週間という短期間での制作となったが団員の特技を活かして協力し、なんとか完成させることができた。		

審　査　員　講　評

4 年ぶりの開催となった地元地域の「牛まつり」。コロナ禍を契機として全国的にも地域イベントが縮小を余儀なくされる中、「なんとか開催したい」と青年会の皆さんが頑張ったことに、大きな拍手とエールを送ります。

“少子化時代だから”と周囲や世の中がそう言ったとしても、子どもたち自身にとっては、いまこの地域に生きている今日一日一日が初めての経験です。その意味で、過去との比較や時代の責任にせず、いまを生きている地域の子どもたちに楽しさと幸せの時間を提供し、よい経験機会をつくったことは、子どもたちの育ちにとっても、地域にとっても大きな意義があります。多くの地域の方々が楽しんだという事実においても、地域住民のニーズに応え、地域活性化に貢献したといえるでしょう。

イベント中の青年会メンバーの丁寧な対応、イベント後の充実感と達成感も、みなさんにとってかけがえのない経験になったと思います。これからのますますの活躍を期待しています！

上平青年団（富山県）

概　要

活動名称	かみたいらヤングファーム	活動実施日	2024年6月9日～2024年12月25日
活動場所	上平地域		
関係者数	30人	参加者数	20人
活動概要	昨年に引き続き、青年団で有機農法の野菜作りにチャレンジしています。SDGsや地域活性の一助になればと感じています。		

審　査　員　講　評

前年度の参加者の声を反映させることで、更に取り組みを広げている点を評価したいと思います。昨年に引き続き有機農法の野菜づくりにチャレンジし、今回は子どもたちといっしょにできることを大切にということで、更によい取り組みとなったように感じました。特に五箇山特産の赤カブ掘りや食育活動など、青年団が協力し合って子どもの貴重な体験機会をつくり、いっしょに汗をながす機会が持てたことは何よりだったと思います。また今回は獣害に遭うなど、自然の中で生きることの厳しさも学べる貴重な機会となりました。このように畑の維持管理から収穫体験まで、野菜づくりの過程では見えない苦労があると思いますが、青年団が子どもたちと共に活動することによって、リピーターが生まれて来るように思います。

大野市灯そう会（福井県）

概　要

活動名称	灯祭	活動実施日	2024年5月28日～2024年8月4日
活動場所	富田公民館 ２階 大会議室		
関係者数	15 人	参加者数	**80 人以上**
活動概要	毎年 ８ 月の第一日曜日に開催される『とみた夏祭り』にて、一部屋を設け、縁日イベントの『灯祭』を開催した。		

審　査　員　講　評

毎年開催していた「お化け屋敷」のマンネリ化という課題に対し、新たな事業「灯祭」を企画した点は、課題解決能力と挑戦意欲が高く、審査会でも好評でした。さらに、町内へのチラシ配布や SNS を活用したボランティア募集によって中学生を含む多様な人材が集まったことは、地域を巻き込んだ事業として一定の成果を得たといえるでしょう。

また、関係者同士の交流を深めるための手作り料理で食卓を囲むのも、青年団らしい取り組みです。アピールレポートに掲載されている写真から読み取れるように、参加者はもちろん主催者も楽しみながら灯祭に参画していることが伝わりました。ボランティアメンバーからあがった「また携わりたい」という言葉に自信を持ち、こうした声をあげた人たちを新たな仲間として迎え入れながら、これからも活動を楽しく続けてください。

福井県連合青年団（福井県）

概　要

活動名称	福井県若者交流運動会	活動実施日	2024年1月23日～2024年9月1日
活動場所	福井県鯖江青年の家		
関係者数	15人	参加者数	50人
活動概要	2024年9月1日(日)福井県若者交流運動会を行った。 県内で活動する市町村団と市町の生涯学習課の担当の方数名、県内で活発に活動しているモルック協会の方からも実行委員を募集し、実行委員会形式で開催した。運動会には多くの方に参加を頂き、スタッフも併せて50名ほどが集まった。運動会の種目の一つにボッチャを取り入れ全青体への選手の派遣にも繋げた。		

審　査　員　講　評

コロナ禍で直接的な体験交流から距離を置かざるを得なかった状況から脱して、若者交流運動会を復活させた、青年団のみなさんの意欲に拍手を送ります。

今回は市町村青年団への呼びかけだけでなく、県内市町の教育委員会にも直接交渉し、生涯学習課担当職員の方々の参加協力を得ています。くわえて、地域の他団体も巻き込んでの実行委員会方式へと幅を広げたことで、大きく地域連携を推し進めた実践として高く評価したいと思います。

また、参加団体として鯖江青年会議所や隣接する滋賀県の各青年団に加え、朝鮮青年同盟北陸支部からも応募があり、地域交流と共に、国を越えた民間交流に貢献している点も注目したいところです。

運動会の終了後も、ボッチャ競技優勝チームを中心に継続的な練習会を実施し、全国青年大会への出場につなげたり、その後も運動会参加者が他の青年団主催イベントにも参加したりするなど、継続的な関係を生み出しています。このように、参加後も、他の企画や継続的な活動へつなげることで組織拡大の足掛かりを生み出していく過程は、地域青年活動を広げていく上で大いに参考にしたいところです。

有度青年団（静岡県）

概　要

活動名称	有度青年団次世代につなげる試み		
活動実施日	2024年11月1日～2024年12月22日		
活動場所	静岡市清水区内		
関係者数	30人	参加者数	6人
活動概要	近年団員が少なく毎年同じ事業をこなしている感がある活動を続けてきたが、大学生と関われることができ新しい取り組みに踏み出すきっかけとなりました。作成したキーホルダーは役立つ意味合いを込めて作製し子供たちに喜んでもらえるものを作ることができました。		

審　査　員　講　評

全国の青年団において団員の獲得や活動の維持が課題となっている中で、新たな取組に着手するというのは非常にハードルが高いと思いますが、有度青年団では、大学生との関係性づくりも兼ねて、自主事業である「有度サンタ便」（事前に家庭で準備したプレゼントをサンタクロースに扮した団員が各家庭に訪問して子供に手渡す取組）という青年団活動に、地元の大学生にも参加してもらおうと取組を展開しています。

実施に当たっては、当日の活動だけでなく企画段階から参画してもらうことで、大学生にとっても青年団側にとってもモチベーションを高めるきっかけになっています。

また、通年の活動を見ても、団員それぞれが楽しみながら活動に参加している姿が見え、継続的な活動には楽しんで取り組むことが大切だとあらためて感じさせていただきました。

今後もこのような大学生との連携をはじめ、地域の様々な関係者・関係団体とコラボレーションすることで、青年団活動が新しい広がりを見せることが期待されます。

藤枝青年ネットワーク（静岡県）

概　要

活動名称	宅配サンタ		
活動実施日	2024年7月21日～2024年12月 14 日		
活動場所	藤枝市内の対象のご家庭		
関係者数	15 人	参加者数	―
活動概要	宅配サンタ事業は子供たちに夢とプレゼントをくばり、市内のご家庭を笑顔にすることを目的に毎年活動してきました。コロナ禍で2年間活動を休止していましたが、仲間の頑張っている姿を見てもう一度この事業を再開するように団長を筆頭に奮闘してきました。藤枝市内のみなさんが一人でも笑顔になれるよう今年のテーマは「笑顔の輪を広げよう!」とし事業を進めてきました。		

審　査　員　講　評

コロナで休止せざるを得なかったさまざまな活動を、再び始動させる苦労は並大抵のことではないだろうと推察します。この度、他の地域で活動する仲間の頑張っている姿を見て、もう一度再開したいという想いが募ったことなど、ネットワークとしての交流の意義は大きいと実感じました。また、団員数の減少の影響もある中、自分が青年団に関わるようになった経緯を振り返り、「自分たちができること」を改めて考えてみるいい機会となったことが見て取れました。宅配サンタ事業のプロセスや目的、テーマや課題などを、改めて明確にしている点も評価したいと思います。宅配サンタの活動を再開することで、子どもたちだけでなく家族の皆が笑顔になることは間違いありません。今後は地域での活動が楽しく続けられるよう、「自分たちができること」に賛同する仲間が少しずつ増えていくことに期待しています。

もりやま青年団（滋賀県）

概　要

活動名称	みんなとつくるモリセイインスタ!	活動実施日	通年
活動場所	ネット上		
関係者数	団員5人	参加者数	―
活動概要	もりやま青年団の活動紹介やイベント周知を目的とし、2019 年から運用を開始しました。 今ではフォロワー約 750 名となり、地域の方々を含め、青年団に興味を持ってくださっている様々な方に見ていただいています。投稿頻度は 1 ヶ月に 5～10 回ほどですが、ストーリー機能なども利用し、こまめな投稿を心がけています。		

審　査　員　講　評

2019 年から継続するインスタグラムによる情報発信が、時に周りを巻き込みはじめていることがよく分かります。インスタグラムを通じて青年会の活動に興味を持った人から声掛けがあったり、場所と時間の制限を受けることなくメッセージで交流が始まったり、SNS の活用が青年団の活動にとても馴染んでいる様子が伺えます。

インスタグラムの経験者の方ならよく分かりますが、情報発信の難しさ、奥深さは想像以上です。どんな画像を、どんな加工で、いつ、どんなコメント共に投稿するのか。青年団では月に5回～10 回の投稿をしていますが、ストーリー機能なども活用しフォロワーはもとより、新しく興味を持ってくださる皆さんに使える工夫が見られます。また、過去のストーリーはハイライトとして事業ごとにまとめられていて、毎年の記録でもあり、実績の振り返りにも使え、誰もがスマホひとつで確認できる点は、活動の持続性につながっています。

継続は力なり。今後ますます盛り上がっていくモリセイインスタに期待します!

日野町連合青年会（滋賀県）

概　要

活動名称	団員募集チラシ	活動実施日	2024年6月～2024年8月
活動場所	日野町連合青年会事務所		
関係者数	4人	参加者数	**4人**
活動概要	日野町連合青年会の活動に1人でも多くの青年に興味を持ち、関わっていただけるように、私たちの活動を紹介できるような団員募集チラシを作成し、配架しました。意見を出し合い、私たちの雰囲気が伝わるようなチラシにできればと思いデザインしました。		

審　査　員　講　評

他地域で学んだことをすぐに仲間と共有、話し合いを持ち、実行に移す力は頼もしい限りです。滋賀県青年団体連合会が主催する事業で「広報の大切さ」を学び、その必要性を実感し、行動に移せています。青年団をこれからもっと盛り上げていきたいという強い気持ちが伝わってきます。そして、団員が増えれば盛り上げにつながることは間違いなく、団員募集チラシの発行はとても重要な取り組みです。

メインの写真を駅伝大会にしたことも、青年団を PR する上でとても重要な選択だったと感じました。駅伝の持つ「皆で一つのゴールに向かって、お互いに助け合いながら走る」というイメージと相まって、青年団活動の趣旨をしっかり伝えられているのではないでしょうか。

制作面では、スマートフォンのアプリを活用することで、ひと手間を加えた加工を施し、手づくりでは出来ないデザインが見た人の興味関心を弾くのに役立っています。

やりがいをもって、仲間と楽しく活動できる日野青年団の今後が楽しみです！

CREW R.S. 竜王町青年団（滋賀県）

概　要

活動名称	わくわくワーク'24 看板	活動実施日	2024年5月9日～2024年11月3日
活動場所	竜王町公民館陶芸教室内竜王町青年団団室(本番・ドラゴンハット体育館)		
関係者数	30人	参加者数	80 人
活動概要	本事業は、地域の事業所の仕事を子どもたちが体験することにより、地域に対して愛情を持つとともに、仕事に対して興味を持つことをねらいとしています。今回は竜王町商工会青年部のイベントに参加し、自動車や家電メーカーや銀行の方たちとともに、職業体験活動を行いました。竜王町だけでなく、東近江地域一帯の子どもたちが来場し、例年の 2 倍以上の来場者数となりました。		

審　査　員　講　評

子どもたちと触れ合い、地域への愛情を深める活動がしたいという思いから職業体験活動に着目した点は、地域ニーズを的確に捉えていると言えます。もりやま青年団の職業体験活動を参考にしたり、竜王町商工会青年部と協力してイベントを開催したりするなど、他の団体と連携することで、より効果的な活動に繋げていました。新型コロナウイルス感染症の行動制限が緩和された時期の対応や、他の団体と協力する際の意見交換など、議論を重ね、合意形成を図るプロセスを重視している点は、組織運営として重要です。参加者が年々増えていることや、大学からボランティア参加があることは、イベントの満足度が高いことを示しています。職業体験を通して、子どもたちが地域への愛情を深めることは、将来的な地域活性化に繋がる可能性を含んでいるため、引き続き活動を続けて青年団の当事者や支援者・応援者が増えることで、竜王町がより豊かな地域になることを期待します。

高島市青年協議会（滋賀県）

概　要

活動名称	あなたの街に!あわてんぼうのサンタクロースがやってきたぁ!!!		
活動実施日	2024年12月21日～2024年12月24日		
活動場所	高島市内		
関係者数	10人	参加者数	7組
活動概要	毎年恒例の事業である。子どもたちの夢（本当にサンタさんがいたんだ!というときめき）の為に、また地域青年や親子間の活性化、親子で季節感を味わっていただく為に、団体メンバーがサンタクロースになりきり、申し込みのあったご自宅まで、事前にお預かりしたプレゼントを届けにうかがう。		

審　査　員　講　評

地域の課題やニーズを把握し、それに応じた事業を企画・実施している点は、地域貢献活動として高く評価できます。特に、クリスマス時期に子どもたちに笑顔を届ける企画は、地域住民にとって魅力的なイベントであり、地域活性化に大きく貢献していると言えるでしょう。過去の経験を踏まえ、改善点や新たなアイデアを取り入れた事業計画を策定している点や、新人団員の意見も参考にしている点は、多様な視点を取り入れ、組織全体の活性化に繋げる上で重要な意味を持ちます。告知だけでなく、青年団の活動や魅力を伝えることで、地域からの応援団も増えていきますので、ぜひ続けてください。新しい団員が入ったことも、本事業の二次的な成果と言えます。アピールレポートの中で触れていた課題は、次年度に改善し、リピーターだけでなく、新しいご家庭にも青年団サンタが訪れることを期待します。

岡山市青年団協議会（岡山県）

概　要

活動名称	防災マルシェ	活動実施日	2024年12月15日
活動場所	岡山県青年館		
関係者数	30人	参加者数	30人
活動概要	2024 年 8 月に岡山県青年団協議会は能登半島地震復興支援ボランティア活動を行った。このボランティアでの学びを活かすために岡山で災害発生時の備えの活動が必要だと感じた。そこで防災をテーマとするサークルに所属する大学生や消防団の力を借りて新聞紙を用いた防災用品作りや消火器の取り扱い方法、起震車による地震体験など、万が一のことを想定した経験をしてもらい、防災に対して興味を持ってもらえる活動を行った。		

審　査　員　講　評

岡山県青年団協議会による能登半島復興支援ボランティア活動をきっかけに、参加した岡山市の青年団が、そのときの経験を地元にも活かしていこうと取り組んだ意欲的な実践です。

消防団、消防署、大学サークル、町会といった地域関係団体との連携もあり、地域の多様な関係者を巻き込んだことも、地域連携と地域振興の点で高く評価したい実践です。企画内容においても、起震車を導入し、震度6級の揺れを来場者が体感したり、災害時に家にある身近な物で代替できる方法（例えば新聞紙でスリッパをつくる）を学べたりするなど、地域の防災意識を高める工夫が随所に感じられます。

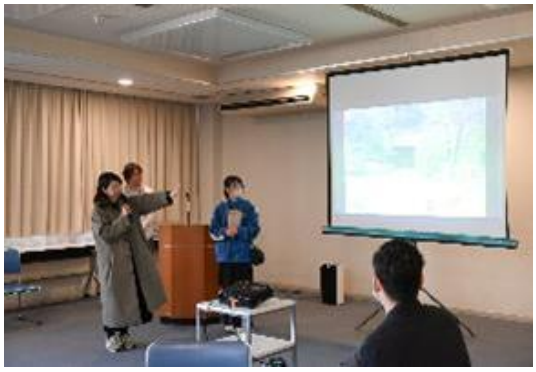
また、今回の活動を毎月定期的に開いている地元青年館のマルシェと共同開催にすることで、地域の方々も参加しやすかったのではないでしょうか。開催場所と方法の利点からも、今後の継続と情報発信の強化を併せることで、地域社会の安全・安心に大きく寄与する取り組みへと成長する、期待のふくらむ実践です。

山口県青年団（山口県）

概　要

活動名称	ガンパルフォーラム 2024「写真でつながる、わたしと山口」		
活動実施日	2024年2月23日		
活動場所	パルトピアやまぐち（防長青年館）・山口市内		
関係者数	団員5人 講師2人	参加者数	25 人
活動概要	毎年パルトピアやまぐちで開催される「ガンパルフォーラム」、今回は山口県青年団が企画運営を行いました。テーマは「写真でつながる、わたしと山口」。NY タイムズ紙で「2024 年に行くべき 52 カ所」の 3 番目に選ばれた山口市で、撮影のフィールドワーク、ミニ講座、座談会、交流会を行いました。参加者は写真を通じて山口の魅力を共有し、出会いや繋がりが生まれました。		

審　査　員　講　評



長く開催されてきた「ガンパルフォーラム」は多様な若者たちの活動を一堂に集め交流を図る事業で、若者当事者である山口県青年団が企画したことは大きな意味があると思います。しかも、近年スマホ等の普及により誰にとってもハードルが下がりつつある「写真」を使い、フィールドワークで地域に出て、魅力を再発見する取り組みは、地元への愛着やふるさと意識を高めるうえでも今後の広がりが期待できる企画です。参加者から青年団に入りたいという声が上がっていることや、その後も留学生を巻き込んだイベントに発展していることも評価の声が審査員から上がっています。一方で、山口県青年団が主催ではなく企画や運営に位置付けられている点について評価が分かれました。いずれにしても主催者と協力することによって事業のねらいや趣旨をどこまで実現できたのかが今後重要になってくるのではないでしょうか。

山口県青年団（山口県）

概　要

活動名称	やまぐち青年写真展「わたしたちのやまぐち」		
活動実施日	2024年2月1日～2024年3月31日		
活動場所	パルトピアやまぐち（防長青年館）2階ロビー		
関係者数	**団員７人**	参加者数	**応募写真点数：25 点**
活動概要	パルトピアやまぐちを舞台にした写真展を企画しました。山口県にゆかりのある青年から作品を募集、SNS で公開したのち、集まった写真を青年館に２ヶ月間展示しました。同時にフォトブックを制作し、来場者に無料で配布しました。同時期に写真をテーマにした「ガンパルフォーラム2024」を開催しています。写真を通じて「やまぐち」の魅力を再発見することができました。		

審　査　員　講　評

「ガンパルフォーラム」の評価点に共通していますが、「写真」を取ることに対する若い世代の取り組みやすさを生かしている企画だと思います。地域の魅力を再発見することにつながるとともに、写真には「若い時代の今」しか取れないものがあるはずです。若者に焦点を当てた写真展には大きな特徴と意義があるでしょう。また、フォトブックを配布するため、協賛広告を自ら集めて回っている点もとてもすばらしいことです。呼びかけられた団体との関係が築かれているためかと推察します。パルトピアに人を集めるという視点も大事なことです。提出されたアピールレポートでは詳細までわかりませんが、届けられた写真をSNSで活用していくことが今後の発展につながるのではないでしょうか。「ガンパルフォーラム」の企画と連動している点や、参加作品の傾向や出展者の属性など、主催者が目指していたものやねらいが実現しているかどうかがレポートでわかると良かったと思います。

山口県青年団（山口県）

概　要

活動名称	初めての浴衣着付け教室～山口県を着飾りましょう!～		
活動実施日	2024年7月6日		
活動場所	パルトピアやまぐち（防長青年館）及び山口市菜香亭		
関係者数	団員５人　講師１人	参加者数	12人
活動概要	2024年１月にNYタイムズ紙において「2024年に行くべき52カ所」に選出された山口市。夏にはホタルまつりやちょうちんまつりなど浴衣を着たくなるイベントが目白押し。普段着慣れない浴衣の着付けを学び、山口の観光地を訪れ和を感じてもらうことで浴衣を好きになってもらうことを目的として、浴衣の着付け教室を開催しました。		

審　査　員　講　評

海外からも山口が注目を集めている時期に、萩城下町や錦帯橋、松下村塾など歴史的な有名観光地の多い特徴をうまくとらえた企画だと思います。若い世代の「浴衣を自分で着てみたい」という気持ちに応えるような企画ではないでしょうか。一方で、講師の数や会場などの制約があるとは思いますが、話題性などを考えると、地域に暮らす外国人や男性の体験者がいてもよかったかもしれません。おそらく、着付けを覚えた参加者たちがSNSへ投稿して拡散されているとは思いますが、まちの魅力と相乗効果をねらい、浴衣で街歩き（フィールドワーク的な企画）などがあるとSNSなどへの一層の広がりも期待できると思います。若者の期待に応える企画としても、SNSに結びつきやすい企画としても、今後の発展が期待される事業ではないでしょうか。アピールレポートに参加者の声や、主催者としての工夫などの記載があると良かったと思います。

山口県青年団（山口県）

概　要

活動名称	『ラーメン食べても罪滅ぼしウォーキング』でめざせ0キロカロリー！ ～オープンデータを利用してラーメン店や文化財の位置を調べてみよう！～		
活動実施日	2024年12月21日		
活動場所	パルトピアやまぐち（防長青年館）・山口市内ラーメン店・文化財		
関係者数	団員3人　講師１人	参加者数	４人
活動概要	「ラーメン食べたけど、これだけ歩けばカロリー0？」イベントでは、ラーメン店と文化財の位置をオープンデータで把握しながらウォーキングを楽しみました。講師がオープンデータの概要と活用法を解説し、オープンデータが入力されたアプリを使用して、地元のラーメン店や文化財を巡りました。この活動により、オープンデータに対する認識が変わりました。		

審　査　員　講　評

応募資料の中に「ねらい」と「本当のねらい」の２つが記載されていることからもわかるように、ご当地ラーメンを食べることは手法であり、まち歩きを通じて地域の魅力を知ってもらいながらオープンデータという公共性の高い情報の活用について体験的に学んだり、交流を深めることが主催者のねらいとなっています。

地元の文化財を知る機会としてもできるだけ参加しやすい企画にして、団体の会員だけでなく、広く参加者を集める工夫がされていると思います。応募書類に準備の経過や企画課に至るまでのプロセスについての記載が少ないこともあり、主催者の苦労や感想がもう少し知りたいところです。参加者がもう少し多いと交流も広がったかと思いますので、ぜひ、振り返りを行って成果や課題を共有して今後につなげてください。

球磨郡青年団協議会（熊本県）

概　要

活動名称	広報紙 SEINENDAN	活動実施日	2024年11月～2025年1月
活動場所	球磨郡青年会館		
関係者数	150人	参加者数	800人
活動概要	球磨郡青年団協議会（球青協）は、7町村で構成されており、各町村で地域貢献のため活動を行っています。地元でも関わることが少ない青年団活動、地域を様々な形で盛り上げていることを知ってもらうことで、青年団を身近に感じ、若い世代が青年団に入団したい！という思いを込めて広報紙を作成しました。		

審　査　員　講　評

球磨郡青年団協議会（7 市町村で構成）の広報紙づくりが進化しました。今までは 20 歳を祝う成人式で配布してきたが、今回は地域の人に青年団の活動をしってもらうために広く配布しています。また、各市町村で活動する全青年団員にも配布し、横のつながりや他の青年団の取組を詳しく知る機会にもなりました。

広報紙づくりは、自分たちの活動内容を他の人に伝えるためにしっかり整理することから始まります。自分たちの魅力な何なのか、今までやってきた事業の客観的な評価はどうだったのか。改めて青年団内の話し合いが必要になります。より良い青年団活動を求めて、地域の方に意見を聞いてみるなど、地元とのコミュニケーションも活発になります。

広報紙づくりは、継続することでその効果は積み上げられ、発行の継続が地元からの信頼を得ることにつながっていきます。それは、青年団活動の「見える化」が進むことで、安心して活動に参加できたり、応援出来たりするようになるからです。

今後も広報誌づくりを通して、地元からの信頼を深めていってください。

球磨郡青年団協議会（熊本県）

概　要

活動名称	教宣セミナー	活動実施日	2024年9月～2025年1月25日
活動場所	球磨郡青年会館		
関係者数	150人	参加者数	30 人
活動概要	球磨郡青年団協議会・熊本県青年団協議会・日本青年団協議会・北海道大学の辻先生の共催のもと開催。元日本青年団協議会副会長の時兼秀充さんを講師に招き「能登半島における震災と復興の歩み」と題して、災害と青年団との関わりについて講和していただいた。その後、時兼さん、辻先生と球青協２名による今後の青年団活動についてなどパネルディスカッションを行った。		

審　査　員　講　評

球磨郡青年団協議会の取組は、熊本県青年団協議会や日本青年団協議会等と連携し、能登半島地震に関連して、災害と青年団の関わりについて学ぶ機会を創出するものとなっています。令和2年には、球磨郡においても甚大な被害が出た豪雨災害が発生しており、その際の対応や活動と重なる部分もあることから、災害時における青年団の在り方等について考える機会をつくるこの取組は、団員の意識を高め、つながりを強固にするためにも非常に重要な取組となっています。

実施にあたって、より多くの方に参加してもらえるよう、参加者の学びが大きくなるよう企画段階から打合せを何度も行い、当日参加できなかった関係者にも学びの機会を提供するため、セミナー当日の動画を用意するなどの工夫もされています。

また、セミナーに合わせて交流会を行うことで、球磨郡だけでなく幅広い関係者とのつながりを構築することもできており、取組をきっかけに青年団活動のさらなる充実と広がりが生まれることを期待しています。

球磨郡青年団協議会（熊本県）

概　要

活動名称	第55回球磨郡青年団協議会駅伝大会		
活動実施日	2024年12月21日		
活動場所	山江村 丸岡公園		
関係者数	150人	参加者数	100人
活動概要	球磨郡各町村の青年団員の交流を目的として、代表が集まりタスキを繋ぎゴールを目指す。また、青年団員として仲間との協力、達成感を体験する目的で開催した。		

審　査　員　講　評

球磨郡青年団協議会が継続している歴史ある取組として、駅伝大会が今年度も実施され、今回で55回目を迎えるということに驚きました。長い歴史の中でタスキをつなぐこの駅伝大会を通じて、青年団員相互のつながりが強化されているだけでなく、青年団と地域とのつながりの構築にも資する取組となっていることが伺えます。

また、映像等ではない、生の青年団の活躍する姿を地域の方に見てもらうため、例年とは異なるコースでの開催となったこともポイントです。検討にあたって、地域の関係者や実際に走る参加者と十分な意見交換や調整を行うことで、地元に根差したコースでの大会の開催につながっています。例年と異なる初めてのコースということもあって、応援も含めこれまで参画されなかった多くの方が集まって交流する機会ともなり、地域に活気とあらたなつながりが生まれる取組となっています。

参加者の中からは次回以降はそれぞれの地元地域でも開催したい（してほしい）という声も出ており、今回の取組をきっかけに、今後の活動の広がりとさらなる展開が期待されます。

大賞

高知県青年団協議会（高知県）

アピールレポート

「高知家多文化共生まちづくりプロジェクト」

お申し込みいただいた際、応募団体が提出した資料を掲載しています

No.

日青協記入欄

２０２４（令和６）年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）

応募団体名	（ふりがな）こうちけんせいねんだんきょうぎかい 高知県青年団協議会		
活動名称	（ふりがな）こうちけたぶんかきょうせいまちづくりぷろじぇくと 高知家多文化共生まちづくりプロジェクト		
活動実施日	令和6年　５月　１３日　～　令和6年　12月　11日		
活動場所	高知県内（土佐市/高知市/いの町/香南市/安田町）		
関係者数	約200名	参加者数	約50名
活動概要	（200字程度）高知県内で増えつつある、技能実習生・留学生等の外国籍のみなさん。同じ地域で暮らす同世代の若者にも関わらず、その受け皿が無いことからトラブルや寂しい思いをしている方々が多いという現状を受け、「高知家多文化共生まちづくりプロジェクト」をスタートしました。はじめましての出会い、交流、お別れ…。国籍関係なく、高知家の多文化交流・絆がこれからも永遠に続いていきますようにという思いを込めた1年間の歩みです。		

本申込の際に記入された個人情報は、日青協の諸事業等にのみ使用するものとします。

活動報告

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。

※文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

※「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の５W１Hがわかるように、

できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

―――＜以下よりご記入ください＞―――

●プロジェクトのきっかけ・動機

１．多文化共生って？

きっかけは高知県内で起こった、とあるエピソードをお聞きした時でした。

母国では珍しい雪が降ったことが嬉しく、スマホで撮影をしていた外国人技能実習生が、通学で通りがかった小学生にもカメラを向け話かけたところ、「不審者に声をかけられた」と騒動に…。カメラを向けた技能実習生に悪気があったわけではなく、しかし話しかけられた小学生にとっては、普段見慣れない外国人に言葉をかけられたことに驚きと恐怖感が沸き起こり、騒動になってしまったというお話でした。

一方で、全国と比べると人数は少ないですが、高知県内にも技能実習生、特定技能の方々、留学生がたくさんおり、増加の傾向にあること、またそれと同時に、母国を離れての高知での暮らしに困っていたり、職場と家の往復ばかりで住んでいる地域や人と交流・ふれあう機会が少なく、孤独を感じている人も多いということを知りました。

そこで、高知で暮らす外国籍の方々の受け皿の必要性を感じるとともに、国籍関係なくお互いを尊重しながら暮らしやすい社会を共に築いていく「高知家多文化共生まちづくり」をプロジェクトとして進めていこうと、県の青年団で取組みがスタートしました。

正直これまで考えたことも無かった外国籍の方々の暮らし。普段まちのコンビニやスーパーで見かけることはあっても、どこか近づき難く怖い印象を持つこともありました。しかし、同じ地域で暮らしている20代～30代の同年代の若者。日本人も外国籍も関係なく、まずは接点を持つところからとプロジェクトは進みはじめました。

●プロジェクトスタート

１．まずは動いてみよう♪やってみよう♪

　プロジェクトは、県内3番目に外国籍の方々の人口が多く青年団も活発な土佐市からスタートをすることにしました（人口約25,000人の土佐市内に現在約400名の外国籍の方が暮らす）。土佐市青年団で毎週火曜日に開催しているスポーツ交流会に、SNS告知や事業者さんにチラシを持って行き技能実習生の方々に案内。最初はどれくらい集まるだろうと心配もありましたが、初回から１０人の参加者が♪はじめましてということもあり、最初は青年団も技能実習生のみなさんも緊張がありましたが、スポーツや休憩中のコミュニケーションを通じて徐々に仲良くなっていきました。

２．はじめまして、ようこそ高知へ♪

　また、同時期に地元専門学校からも相談が。留学生の受入れを積極的に進める方針の下、高知県外の専門学校と差別化を図る為に地域との繋がりを作りたいとの意向を受けて、県青協では「高知家の入学式・運動会」を提案し、実施しました。

　入学式では町内会など地域の方々に集まってもらい、観光地や歴史、そしてお酒の飲み方など、高知の紹介を行い、留学生には自己紹介やこれからの抱負を盛り込んだ活動・意見発表、終わった後は茶話会を行い、留学生の人となりを知る機会としました。地域の方々からは「よく自転車で行きゆうのを見かける！」「この間そこのコンビニにおったろう？」「孫みたいやねぇ。」など、普段“見かける人”から“共に地域で暮らす人”へと意識が変わるきっかけにもなりました。

3.　高知の夏を一緒に体感♪よさこい祭りへ！

　高知の夏の風物詩といえば、よさこい祭り。県青協でも毎年チームをつくり出場をしており、「せっかく高知へ来たのなら…よさこいを一緒に体感してもらいたい！」との思いで、外国籍の方々に対して踊り子募集を開始しました。

　「体験」と言うことで、練習も数回でよさこい節パートさえ踊ればそれ以外は自由、衣装もメインのシャツ以外は自由、参加費も格安といった体験プログラムの予定だったのですが、いざ練習が始まると…！

「もっと教えてほしい！」「次の練習はいつですか？」「全部踊りたい！」

等、よさこいにどっぷりハマってしまう熱狂ぶりに！とうとう本番は、15名の技能実習生や留学生、ALTの方々が仲間に加わり、丸1日全ての会場を一緒に踊りきることができました。

　また、週に3回の練習の過程を通して、若者同士の交流が深まったことも大きかったです。これまでは、「外国籍のみなさん」と読んでいた人も、「〇〇ちゃん！今日もがんばろうー！」と、顔や名前を覚えることはもちろん、仲良くなってくるにつれ、練習の雰囲気も明るく楽しくなっていきました。

４．高知県青年大家文化部門へ出場♪
　夏のよさこいの取り組みを通じて仲を深めていく中で、特に技能実習生のみなさんが高知へ来た理由、日頃の暮らしや母国への思いについて触れる機会も増えてきました。そんな技能実習生の声を発信してもらいたい！と、秋に開催した高知県青年大会の意見発表に出場をしてもらうことになりました。他の技能実習生や日本語教室のメンバーも応援に駆け付け、涙を流しながら母国や家族への思いを発表する姿に会場も感動の空気に包まれました。

●地域や周りの方々の反応
１．つなぎ役のみなさんと一緒に
　今回プロジェクトを進める中で、技能実習生と地域との繋ぎ役として多くの方々と一緒に連携できたことが大きかったです。国際交流担当の地域おこし協力隊、留学生を受け入れる専門学校、技能実習生の受け入れ先の事業者の方々、地域の日本語教室のみなさん…。これまでそれぞれの立場で外国籍の方々をサポートする流れはありましたが、一緒になって企画や協力をしていく中で、国籍関係なく、その土地でともに暮らすことの尊さを共に感じ合うことができました。

２．多文化共生まちづくり地域研修会の開催
　プロジェクトを通してさまざまな方々と一緒に取り組む中で、地域住人が、多文化共生まちづくりや、地域で暮らす外国籍の方々について学ぶ機会をつくろうと、地域研修会を開催しました。県内の人口減少とともに数も増えつつある技能実習生や特定技能の外国籍のみなさん、最初は地域の方々も「時代の変化についていけん…」「こんなにたくさんの人が暮らしゆうがやねぇ」と驚きや戸惑いが隠せない様子でした。しかし、グループワークで実際に技能実習生とお話すると、
「思った以上に日本語話せるがや！」
「知り合いの人の所で働きゆう！困ったことがあったら、私が言うちゃおきね！」
「みんな素直でかわいらしいねぇ」
と、すっかり打ち解け合っており、“きっかけ”さえあればお互いに受け止め合ったり、地域に溶け込んでいくことはできるんだと改めて感じる機会になりました。

３．それぞれの変化
外国籍のみなさんにとっては、家と職場・学校の往復だけだった生活から、新しいつながりや高知の人のあたたかさに触れ、より高知のことを好きになってもらう変化になりました。また、青年団にとっては、自分たちだけでは数人しか集まらないスポーツ交流の定例会では、外国籍のみなさんに来てもらうことで活気づいたり、お客さんをもてなす・受け入れる気持ちが自然と芽生え、リーダーシップが磨かれる機会にもなりました。

●“永遠”に続く交流に

１．技能実習生とのお別れの時

1年間を通して仲良くなった外国籍のみなさんとも、任期が終わったり、家庭の事情等で高知を離れてしまう実習生もおりそれぞれお別れの時もやってきました。特に、1番最初のスポーツ交流から中心で関わってくれていた、インドネシア出身のイセフさんとのお別れの時。最後はみんなで送り出そう！と青年団・協力隊・地域の方々で、ソフトバレー大会「イセフカップ」＆お別れ会を企画・開催しました。

今までは交わることのなかった外国籍のみなさんでしたが、交流が深まり、本当に高知を離れてしまうと思うと、寂しさが込み上げ、涙を流す・イセフさんと抱き合うメンバーもたくさんでした。

２．多文化共生まちづくりテーマソング『SELAMANYA』（スラマニャ[永遠]）

これまでの、イセフさんや技能実習生・外国籍の方々との交流の中で感じたことを、青年団メンバーで歌にしました。「（出会い・交流の）この記憶は“スラマニャ（永遠）”君を守りますように」私たちと外国籍のみなさんは、これまでずっと一緒にいた訳ではないけれど、今ここ高知で一緒に暮らしたり笑いあったりしている、そんな多文化交流・絆がこれからも永遠に続いていきますようにという思いを込めてつくり、お別れ会の中で披露をしました。

短い間でしたが、“絆”・“永遠”という言葉がしっくりとくる、そんな1年間の深い関わりになれたことが大変嬉しく、ありがたかったです。

※『SELAMANYA』（スラマニャ）とは、インドネシア語で「永遠」という意味です。

３．暮らしの中に“多文化共生”♪

このプロジェクトを進めていくにつれ、まちで外国籍の方々を見かけると嬉しくなる、知らなくても困っていたら助けようと思う、関わる若者や地域の方々にとって大きな変化がありました。同じ高知で一緒に暮らす、つながるきっかけをつくるだけで、お互いの暮らしが明るく楽しくなったと感じます。なぜそんな優しい気持ちにさせてくれるのか？外国籍の方々との交流・親交を通じて、その答えを探しに行きたいと思います。

一方で、まだまだ外国籍のみなさんに対する交流の機会やつながる場は少なく、今後も各地の青年団と一緒になって県下各地でプロジェクトを継続していきたいと思います。

←高知家多文化共生まちづくりプロジェクト
取組みをまとめた動画をぜひご覧ください。
曲：「SELAMANYA」（スラマニャ）

田澤義鋪賞

高知県青年団協議会（高知県）

アピールレポート

「学びのココロプロジェクト」

お申し込みいただいた際、応募団体が提出した資料を掲載しています

２０２４（令和６）年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・自由記述）

応募団体名	（ふりがな）　こうちけんせいねんだんきょうぎかい 高知県青年団協議会		
活動名称	（ふりがな）　まなびのこころプロジェクト 学びのココロプロジェクト		
活動実施日	令和６年　　５月　　１日　～　　令和６年　　１２月　　２５日		
活動場所	高知県内（高知市/土佐市/四万十市/安田町）		
関係者数	約２００人	参加者数	のべ１５０人
活動概要	（200字程度）学校教育以外の、こどもたちを見守る・育てる「青少年の居場所」づくりを、県青協が主導となり、県下各地の地域団や青年団OBOG、社会福祉協議会等と連携して進めていく「学びのココロプロジェクト」が今年度始動した。こどもたちを取り巻く環境が特に厳しいと感じる高知県で、居場所の必要性や、青年団・大学生等の年齢の近い大人とのふれあいの大切さを感じることはもちろんだが、こども達の喜ぶ顔を見ると地域青年のやりがいもひとしおだ。これからも未来に残していきたい、まなココプロジェクトの歩み。		

本申込の際に記入された個人情報は、日青協の諸事業等にのみ使用するものとします。

活動報告

※活動の詳細を以下に自由に記載してください。

文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。

※文字の大きさやレイアウトに指定はありません。

※「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の５W１Hがわかるように、

できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

―――＜以下よりご記入ください＞―――

■学びのココロプロジェクト発足！

きっかけは県青協に加盟している学生団体・学生合同なぶら（以下、なぶら）の4回生の金澤くん。彼は高校生の時、家庭環境や部活環境が影響して一時期不登校だった原体験から、その時に彼が求めていた「学習支援や悩みを聞いてあげられるような青少年の居場所」を作りたいという思いをきっかけにこのプロジェクトは始動した。

■子どもを取り巻く高知の現状

高知県は人口減少が著しく、全国で５番目の人口減少率となり歯止めが効かない状態であり、合計特殊出生率は1.30と過去２番目に低い。核家族、共働きやシングル家庭など家族の在り方も変化し、子どもの成長を見守れる大人が減っていると感じる。
家庭では面倒を見きれず、学校側に責任転嫁する家庭も増えている。学校教育は社会に出る前の躾ができている前提のため担任の先生1人だけでは手に負えない状況となっており、実際に新規採用教員の退職者は3年連続で増加している。
また2023年度は、全国の不登校児童数は11年連続で過去最多を記録し、34万6,482人の児童生徒が不登校で、40人のクラスであれば1人は必ず不登校の児童生徒がいる状況だ。特に高知県は不登校の生徒の数は多く、中でも中学生の不登校児童数が多く、2022年度では100人あたり約6人と、非常に高い数値となっている。
このことから子どもが安心できる場所が少なくなっており、学校も社会も家庭に寄り添えていないのではないかと感じる。

心の場所と子どもたち

金沢 謙心 22 高知大４年

「学びのココロ」プロジェクト。私は現在大学を休学し、中高生を対象に月1回、公民館で大学生が先生役となり、学習サポートやカタリバといった、青少年の居場所づくりを企画している。

私は昔から人を笑わせるのが好きだった。一方家庭環境は複雑で、今の名字は三つ目である。妹を持つ長男として、一人で家庭の調和や機嫌を背負ってきた。多感な時期に誰かに相談したり存分に甘えたりできないまま、家庭での空虚感と所属した吹奏楽部の上意下達の環境等がトリガーになり、高2でうつ病を発症した。

今、体が動かず文字が読を獲得し、これからも子どもたちの笑顔をどんどん引めなくなり、食事も味がしなくなった。何度、マンションから身を乗り出したか分からない。

あの苦しかった時期に自分が欲しかった、と思うものを形にしたものが「学びのココロ」だ。自分のことを真剣にお話ししたり、勉強でつまずいているポイントをチェックしたり。

子どもたちのバッテリー切れは「なるほど！」と言う声、毎回楽しみに参加してくれるのが嬉しい。

それぞれ、このようなちょっとした「きっかけ」があるだけで、子どもたちは随分楽になるのではないだろうか。専門的ではない、ちょっとした「きっかけ」しいのではと推察される。

2024年11月12日　高知新聞

■青少年育成×青年団
　高知県青年団協議会として若者の現状に何かアプローチできることはないかと考え、高知県ボランティア・NPOセンター主催の「夏のボランティア体験キャンペーン」（通称：ナツボラ）を活用して毎年高校生と一緒に行う地域活動を始めた。
　このキャンペーンは人手が足りない社会福祉施設やNPO団体が中学生～社会人をボランティアとして受け入れる事業で、施設や団体はマンパワーを得ることができ、高校生はボランティアをする代わりに内申書に活用することができる。
　私たちはこの事業を活用し地域のお祭りの準備や運営を一緒に行ったが、イベントだけの関係だったり、高校生も内申書のためだけだと継続的な関係作りが難しい状況が続いていた。
そんな時に動き出したのが「学びのこころプロジェクト」だ。

■学びのココロプロジェクトとは
　学びのココロプロジェクト（通称:マナココ）は月に一度、休日に３時間程度小学生～高校生を招いて、一緒に勉強したり、レクリエーションをするプロジェクトで、実施主体は加盟団のなぶら、コーディネートを金澤くんを中心に県青協で進めた。

■マナココをやってみて
　初めは定期開催は決まっておらず、参加者はナツボラで知り合った高校生1名と中学生1名だったが、「もっとやってほしい」「次はいつ？」と嬉しい言葉も聞かれ大変好評だった。何度か開催するうちに、リピーターや子どもたちの口コミのおかげもあり、人数も増えて、月に一度の集える場となった。
　普段関わらない少し上のお兄さんお姉さんと勉強したり悩み話したり大学の話を聞いたりすることで、学校や家庭では話せないことも話せる「居場所」になっていると感じる。
　大学生にとっても、今まで勉強してきたことが活かされるやりがいだけでなく、子どもたちをまとめるリーダーシップ、どうしたら気軽に悩みを相談してもらえるかという勉強だけではない子どもたちとの関係の作り方でも学ぶことが多くあった。そして大学生の中には教員を目指しているメンバーもおり、実践的な場にもなった。

■地域（団）×マナココ■
①春野町青年団×マナココ
　高知大学の近く以外でも、青年団がある地域や応援してくれる青年団OBがいる地域で開催した。
　まずは復活したばかりの春野町青年団が主催するハロウィンパーティーとの共催。春野町青年団が企画を考え、大学生が先生役として読み聞かせやお菓子配りをなぶらと協力して実施した。
　印象的だったのが、参加者のお母さんが「久々に子どもの楽しそうな笑顔をみた、本当にありがたい」と涙ぐみながら言ってくれたことだ。毎日子どもと向き合い続けて力んでおりしんどかったのだろうかと胸が痛くなった。
　親と子の間に第三者（青年団や大学生）が入ることで互いに適度な距離を作ることができ、それが気持ちの余裕につながり、自然な形で向き合えるようになると感じた。

②安田町×マナココ

次に安田町という町の青年団OBが主催する子ども食堂と共催した。子ども食堂と共催することで、普段家事育児が忙しく地域のイベントに顔を出せないご家庭が参加され、地域との繋がりづくりのきっかけとなった。青年団としても、マナココをきっかけに地域との接点ができ、地域の若者やOB・OGを巻き込みやすいと感じた。

子どもたちを中心に青年団・大学生など若者と、青年団OB・社協・行政などが地域に集い繋がり、連携して実践することで、地域青年（団）が地域でイキイキと主体的に活動することができ、青年団（活動）の衰退に歯止めをかけることができるのではないかと感じ、今後、高知県下で展開して行きたいと考えている。

■これからのマナココ

マナココは多くの可能性を持っていると感じる。今は県青協が主催をしているが、今後は地域団が主催となり、地域をフィールドにしたイベントを開催したいと考える。

今年度で言うと春野町の親子芋掘り、土佐市のクリスマスイベント「ドラゴンクリスマス」だ。親子芋掘りでは地元の幼稚園に協力してもらい参加者を募り、地域の方から畑を借り、芋の植え付けからお世話を青年団が行い、収穫の時のレクリエーションを大学生が担った。

ドラゴンクリスマスは社会福祉協議会が定期開催している子ども食堂に合わせて、クリスマスレクリエーションを大学生に運営してもらった。子どもがレクを楽しんでいる間は、パパママのサポート事業をメインとしている地域おこし協力隊の方にお声かけし「ママパパカフェ」を開いた。
地域とイベントを繋いだりイベント自体の企画・運営は青年団が担い、子どもたちとふれあう現場は大学生が企画・運営する役割分担がミソだ。

マナココと連携したイベントを開催することで、こどもたちのためだけでなく、イベントを通じて地域青年団や大学生の組織強化（リーダーシップや地域との繋がりづくり）に繋がると感じる。

今後は地域団が行なっている手作り成人式やサンタ事業との共催だけでなく、互いの活動が活動が活発になるきっかけとしたい。さらにはマナココ参加者の中高生と一緒に取り組んでもらうことで、地域を感じるきっかけしたい。また子ども食堂と連携し、 地域で子どもを見守る流れを強化していきたい。

このプロジェクトを通して、て地域の方や保護者の方とのやりとりを通じて地域と繋がり、青年団を知ってもらえるきっかけとなった。これを各地域団が主催できるようになれば、やりがいだけではなく知名度も増し、何かあれば青年団に声をかけてみようと思ってもらえるきっかけになると感じた。そしてマナココと掛け合わせることで、大学生と地域団が活発になったと感じる。

今後も青年団がある各地域で、青少年の居場所となるマナココを開催できるように、地域団と大学生をサポートをしていきたい。

全国青年団 OB 会奨励賞

五箇三村連合青年団（富山県）

アピールレポート

「映画『HAGAYASHI』」

お申し込みいただいた際、応募団体が提出した資料を掲載しています

No. 1

日青協記入欄	1701

２０２４（令和６）年度全国地域青年「実践大賞」
アピールレポート（共通・設問有り）

応募団体名	（ふりがな）	ごかさんそんれんごうせいねんだん 五箇三村連合青年団				
活動名称	（ふりがな）	えいが　『はがやし』 映画『HAGAYASHI』				
活動実施日	令和6年	6月	9日	～	令和7年	1月　25日
活動場所	五箇山地域					
関係者数	４５人		参加者数	３５人		
活動概要	（200字程度） 人口が減っていく中、「隣地域の青年団と一緒に活動しよう」「五箇山は一つ」をモットーに、五箇山地域みんなで一つの作品を作りたい。そして後世にも残したいという思いが強くなり、五箇山（上平・平・利賀の３つの地域の総称）を舞台に史実もなにもない、オリジナルフィクションの自主映画を制作することに決めました。					

活動期間　※準備から活動終了までの打ち合わせやリハーサルなど活動を行った年月を時系列で記入してください。

年	月	活動内容（各別にまとめて記入）
6	4	製作するか否かについて相談
	6	あらすじの打ち合わせ
	7	あらすじの打ち合わせ
	8	あらすじの打ち合わせ
	9	脚本・台本のたたき台作成
	10	脚本・台本の完成。配役決め
	11	打ち合わせ会議、リハーサル、撮影
	12	撮影、編集
	1	主題歌収録、試写会開催

＜アピールポイント＞

①活動の詳細を以下に自由に記載してください。文字だけでなく、写真など取り組みの様子や活動の風景なども入れても問題ありません。
②文字の大きさやレイアウトに指定はありません。
③「いつ、誰が、どこで、どのように、何をした、その理由は？」の５W１Hがわかるように、できるだけ具体的に書くことを心がけてください。

■活動のきっかけ、事業をつくるうえで参考にしたこと、準備期間に関すること等

昨年上平青年団が、昔から伝わる五箇山民謡を伝えたとされる”お小夜さん（石川県能登地域出身）”の物語を題材として、短編映画『お小夜伝』を製作しました。地域の敬老会で上映さることが目的でしたが、地元のテレビ番組でも放映していただいたところ、地域内外で大きな反響を呼びました。それ以降、上平地域だけではなく「五箇山は一つ」をモットーに、五箇山地域みんなで一つの作品を作りたい。そして後世にも残したいという思いが強くなり、五箇山（上平・平・利賀の３つの地域の総称）を舞台に史実もなにもない、オリジナルフィクションの自主映画を制作することに決めました。

■活動中の苦労、印象深かったこと等

何も題材にしない、ということはゼロから脚本を考えるということです。ミーティングでは楽しく案を出し合い、「それいいね」となったものがいくつかありました。しかしいざそれの台本作りをすると辻褄が合わなかったり、分かりづらかったり。映画ってすごいなぁと改めて感じました。また、３村の青年団の集まりなので、全員が揃う日というのは不可能でした。なので事前に撮影日を３日間設けて、その中で３日参加可能の方から主演を決めていきました。誰もが素人ではありましたが、全員真剣な眼差しで撮影に挑みました。

■活動の成果、今後の展望に関すること等

当初は11月には撮り終わる予定を立てていましたが、台本作りが長引いたり、思いが強くなったりして、1月18日が最終撮影日となりました。１／２５には関係者を対象にした試写会をおこないました。ご来場者アンケートを実施し、映画祭出店やSNSを活用した方法で多くの方にお楽しみいただけるようにと考えています。

■地元の人たち（参加者）の反応

1/25に完成披露試写会を開催いたしました。「青年団が盛り上がると地域が盛り上がる」「みんなで制作したっていうのが伝わる作品」「全員を肯定する描写や五箇山の景色がきれいに映し出されてすごかった」という方や、五箇山地域以外の来場者は「青年団がこんなにもがんばっていたなんて。まだまだ可能性を感じた。これからもがんばって」という声がありました。私たちの活動が少しでも地域を元気にできれば、それにこしたことはないと思っています。今回の制作による活動をきっかけに、人口減少が著しい小さな地域でも若者がもっともっと楽しいことを見つかられるようになればいいなと感じています。

■自由記述欄（各欄で記載できなかったこと等）

2024年、南砺市が合併して20周年でした。そして本年、相倉・菅沼の世界遺産登録30周年を迎えます。本作品は人との繋がりが本当に大切だと感じられる、ヒューマンラヴストーリーになっておりますので、私たちの青春をぜひご覧ください。

以　上

本申込の際に記入された個人情報は、日青協の諸事業等にのみ使用するものとします。

令和７年１月２２日　富山新聞社　朝刊

2025年(令和7年)　1月22日(水)　23面 1社

富山新聞　新聞定価 月ぎめ 本体価格3,593円(税込み3,880円)　1部売り(税込み)180円　第3種郵便物認可

「全住民が、泣いた！？」

五箇山愛 自主映画に

上平、平、利賀 3青年団が合同製作

25日試写会

南砺市の五箇山を題材にした映画を上平、平、利賀3地区の青年団員が合同で自主製作した。団員たちが脚本を書き、監督や役者を務めた。大正の発足からそれぞれ100年以上の歴史がある3青年団が一丸となったのは初めてで、平地区で25日、試写会が開かれる。映画のキャッチコピーは「全五箇山民が、泣いた!?」。南砺市誕生20年の節目に住民の絆を強める1本となりそうだ。

美しい山肌を背景に映画のシーンを撮影する団員と林さん（左）
―昨年12月、南砺市菅沼の五箇山合掌の里

試写会の参加申し込みを受け付けるQRコード

五箇山では2023年、平青年団が江戸時代に五箇山に流された遊女の悲恋をテーマにした映画「お小夜伝」を製作した。敬老会や文化祭で発表すると、涙ぐむ住民もいた。

その映画づくりが青年団活動として評価され、昨年3月には日本青年団協議会主催の全国青年実践大賞で最高賞を受けた。

今回の映画製作は、前上平青年団長の森井勇真さん(33)らが「3地区の青年団のつながりを強めていきたい」と呼び掛けた。これまで3青年団が共同で取り組んだ事業はなく、年に1回、忘年会を開いてきただけだった。

五箇山の絆を結び直そうと考え、昨年6月に「五箇三村青年団映画製作実行委員会」を組織した。

脚本、台本、監督は森井さんが担当し、昨年11月中旬から3地区でロケを重ねた。団員35人が役者を務め、ドキュメンタリー映画の制作経験がある元地域おこし協力隊員、林賢二さん(39)が撮影した。

映画「HAGAYASHI（はがやし）」は12年ぶりにふるさとに戻った研究者の女性「ゆき」と、村を愛する幼なじみの男性「一郎」ら住民との人間模様を描く。

作品名は五箇山を愛しながらも離れた出身者に対する親密さと悔しさが入り交じった「はがやしさ」にちなむ。

平地区の世界遺産・相倉合掌造り集落に「天狗の足跡」が残る伝説に触れ、住民の記憶から「一郎」が消えるサスペンスの要素を入れた。

今月18日に撮影を終えて最後の編集作業に入っており、上映時間は約35分間となる予定。

試写会は25日午後1時半から平若者センター「春光荘」で開く。入場無料。上平青年団がフェイスブックで事前申し込み用のQRコードを掲載する。

森井さんは「五箇山が大好きな自分たちでつくった映画を楽しんで見てほしい」と話した。

タイトルは――HAGAYASHI

合掌造り家屋を生かした飲食店前で撮影に臨む団員
―昨年12月、南砺市小原

令和７年１月２６日　富山新聞社　朝刊

山　新　聞　　第3種郵便物認可

五箇山で撮影 映画「HAGAYASHI」

青年団 方言交え熱演

上平、平、利賀 初公開、住民鑑賞

南砺市上平、平、利賀3地区の青年団が連携し、五箇山地域で撮影した自主制作映画「HAGAYASHI（はがやし）」が25日、平地区で初公開された。美しい自然を背景に団員が方言を交えて熱演した映像が披露され、住民らがふるさと愛を感じ取りながら視聴し、拍手を送った。

試写会で披露された映画の一場面

平若者センター「春光荘」で開かれた試写会には、園児から高齢者まで約50人が訪れた。脚本、台本を書き、監督を務めた森井勇真さん(33)＝前上平青年団長＝が3青年団の絆を深めようと撮影に挑戦した経緯を説明し「僕たちの青春を堪能してください」とあいさつした。

あいさつする監督の森井さん(左)と主役の和田さん＝南砺市の平若者センター「春光荘」

主役の一人で、ふるさとに戻った研究者「ゆき」を演じた上平青年団の和田小夏さん(25)は「演技は初めてで難しかったけれど、できるだけ気持ちを込めました」と述べた。

映画は世界遺産・相倉合掌造り集落の天狗伝説を素材とした。ミステリーや恋愛の要素を交え、研究者と、村を愛する幼なじみの男性や住民との人間模様を描いた。

最前列で鑑賞した南砺市商工会女性部の山田智恵子部長は「若い人の頑張りが何よりうれしく、天狗伝説に興味が湧いた。続編を見てみたい」と期待した。映画に興味を持ち、福光から訪れた無職森田悦郎さん(66)は「南砺の自然美が表現されていた。青年団がこれだけの作品を仕上げられて素晴らしい」と語った。

3青年団で組織した映画制作実行委員会は今後、五箇山の催しでの上映やDVDの制作を検討する。

令和７年１月２６日　北日本新聞社　朝刊

北日本新聞社　13/24

本　新　聞　（第3種郵便物認可）

五箇山舞台に自主映画

五箇山地域の3青年団が製作した自主映画を鑑賞する地元住民ら

南砺3青年団　再会描く心温まる短編

南砺市五箇山地域の上平、平、利賀の3青年団でつくる実行委員会が、同地域が舞台のオリジナル脚本の自主映画「HAGAYASHI」を製作した。主人公とヒロインの再会を軸にした心温まる物語で、団員自らが監督や脚本、役者を務めた。25日は同市下梨（平）の平若者センター春光荘で試写会があり、住民や関係者ら約40人が出来栄えを確かめた。（石田大成）

五箇山地域では2023年、上平青年団が江戸時代に五箇山に流された遊女の悲哀を描いた映画「お小夜伝」を製作した。今回の映画は3青年団のつながりを強めようと、前上平青年団長、森井勇貴さん(34)らが企画。昨年6月に団員35人で実行委員会を立ち上げ、同11月中旬から今年1月18日にかけて撮影を実施。35分の短編に仕上げた。

五箇山で生活する主人公「一郎」と、12年ぶりに故郷に戻ってきたヒロイン「ゆき」との再会や、彼らの抱えるもどかしさを描いた物語で、五箇山に残る天狗伝説に着想を得て、住民の記憶から「一郎」が消えていくサスペンス要素も加えた。

監督と脚本は森井さん、撮影と編集はプロのカメラマンで元地域おこし協力隊員の林賢一さん(39)が担当した。映画のタイトルは富山弁の「はがやしい」に由来する。

試写会では森井さんとヒロインを務めた和田小夏さん(25)があいさつ。森井さんは「3青年団の活動を形として残せたのはうれしい。映画が少しでも地域の力になれば」と話した。

今後は試写会でのアンケートの結果を基に、イベントでの上映やDVD化、インターネット配信などを検討する。

上映に先立ちあいさつする（左から）森井さんと和田さん